



世代や地域をこえて、たくさんの人たちと感動をともにしながら心をつなぎ、夢を創っていききたい～「想像力と創造力」をテーマに『表現』と『仲間づくり』～  
特定非営利法人「ZEROキッズ」代表の佐々木香さんに聞く

ZEROキッズは、子どもたちが自分で考え、自分の手で作り出していく表現のプロセスを大人がサポートする活動です。代表の佐々木さんに、設立の頃からこの10年を振り返ってお話を伺いました。

きっかけは歌が好きだったから・・・

学生時代に合唱をやっていた歌うのが好きだったので、はじめは子どもの幼稚園のママさんコーラスサークルに参加しました。子どもも近所の少年少女合唱団に入りましたが、親の趣味だったかな?(笑)子どもの合唱団に幼稚園の友達を誘ったりして、いつの間にか私が親の会の代表になり、親子でコンサートをしたりして。今思えば一番楽しい時でしたね。その時には、ZEROキッズを10年も続けることになるとは思っていませんでしたが、このネットワークが、今の活動の原点です。好きなこと、楽しいことに出会ったらとにかく始めてみる、そこから何かがきっと生まれてきます。

みんな夢とパワーを持っている

子育て真っ最中の女性たちは、世間からは「お母さんたち」って一くりにされて、「私」という「個」がなくなってしまうように思ったり、周囲の目も「〇〇ちゃんの子」という見方をされることが多いけれど、本当はいろいろな夢やキャリアを持っているんです。実際、私たちのネットワークにも、イラストが得意な人、音楽が得意な人、デザインが得意な人、いろいろな才能をもった人が集まりました。周りをちょっと見回してみてもいいんです。きっかけや出会いがあればきっとパワーがあふれ出すと思います。

ただ、子連れで動くのはどうしても地域ということになってしまいますが、興味関心を持って集まる地域は行政区や学校区とは少し違うかな?「地域」も「人」もそんなに限定して考える必要はないんじゃないかな?と思いますね。

最初の舞台「111ぴきのねこたちのゆかいな音楽会」～「もう私、なんでもできるような気がする!」と、ある親ねこ

1993年、区民ホールZEROの開館記念事業に、子どもと親たちの合唱団でエントリーしました。とはいえ、人数も少なかったので、参加者を公募したところ200人以上親子が集まることに。突然に大所帯になってしまいました。運営のノウハウなどはありません。発起人の親たち20人くらいで実行委員会を作り知恵を出し合いました。「111匹のねこたちのゆかいな音楽会」という演目に掛けて、実行委員会は「親ねこ会議」、会報は「ねこねこ通信」です。遊び感覚で楽しくやるのがモットーでしたが、毎週日曜日の大人数の練習を運営し本番を迎えるために、NPO組織になった今以上に組織的運営をしていたかもしれません(笑)。

この開館記念公演は大成功で、昼の公演のチケットはすぐに売り切れて、夜には追加公演もしました。終わったときに、親ねこ(母親)の一人が「もう私、何でもできるような気がする!」と言っていたことを覚えています。

子どもの心に危機感・・・今、私たちにできることを

その後、1994年に「ZEROキッズ」を設立しましたが、それは「111ぴきのねこ」が成功したのもう一度舞台をやろうと思ったわけではありません。むしろ、その練習の過程で、決められた振り付けはできるけれど自分で考えて表現することができない子どもたちを目の当たりにして、危機感を持ったからなのです。約束しないと遊べない、年齢が違う子とは遊べない、習ったことはできるけれど自分で考えて表現することができない子どもたち・・・このままでいいのか?心が何かに縛られているようで、うちの子を含めてこの子たちは将来どうなっちゃうんだろう?という危機感です。

こういうことの解決は学校や塾に期待しても限界があるし、誰かにお任せするのではなく、私たち、気づいた人がやるしかないと思ったんです。私たち親がやらなきゃ誰がやる?と。待っているうちの子どもも育ってしまう(笑)。それでZEROキッズを立ち上げたのです。

「まちがったこたえはない/わからないもない/じぶんのおもったとおり/じしんをもってやったら/それがたまたまいいこたえなんだ/さあ、はじめよう」(ZEROキッズの最初の表現遊びのワークショップテキストの表紙より)これが、設立当初からの、子どもたちへのメッセージです。これを伝えたくて、ZEROキッズをやっているんでしょうね、今も。

「子どもってすごい!」と思い続けたこの10年

最初は月に1回でしたが、学校週五日制と共に活動回数を増やし、音遊びや表現遊び、歌、ダンスなど、いろいろなワークショップを行いました。当初、子どもたちに伝えたいことの一つに「日本語の美しさ」がありました。でも、歌詞に「星が瞬く」とあっても、子どもたちにはその体験がなくイメージできないから歌えないことに気がつきました。そこで、様々な体験をプログラムに入れて、体験からイメージをふくらませるようにしました。教えられるよりも、体験から自分で学ぶことがたくさんありますね。私自身も、様々な分野の専門家にたくさんのことを学び、子どもたちから教えられました。子どもが大人をつなげてくれた、といえるでしょうね。

そして5周年の1998年、青梅の森を歩いて創作したミュージカル「森のふしぎ」を上演しました。その後も、2000年に三浦の海の自然体験から「海のふしぎ」、2003年には群馬の星空から「そらのふしぎ」というミュージカルを子どもたちと一緒に創って上演しました。

ZEROキッズはミュージカルをやる団体だと思われがちですが、公演だけが目的ではなく、みんなでそれを創るプロセスすべてがキッズの活動なのです。ではなぜ公演をするかという、舞台はZEROキッズのメッセージであり、その達成感は子どもたちに大きな自信と成長をもたらすからなのです。自分の力でちょっとたいへんなことに立ち向かうこと、これが重要なのだと思います。

でも、子どもの力ってすごいんです。子どもたちは、自分を安心して出している場があれば、時に120%、200%の力を発揮して大人やプロを超えることがあります。この予想できないパワーが面白い!これからは、子どもが発する言葉や動きの一つ一つのカケラの輝きから生まれる様々な表現で「子どもってすごいよ!」と発信していきたいと思っています。



特定非営利活動法人ZEROキッズ(中野区)

なかのZEROホールの開館記念事業(1993)をきっかけに結成。「そぞう力」(想像力&創造力)をテーマに、音楽・演劇・ダンス・マイム・造形活動・自然体験(環境学習)など、五感をフルに使ったいろいろな表現にチャレンジするワークショップ活動を通して学校や学年を越えた地域の「仲間作り」を行う。会費制で保護者が運営を支え、各分野のプロも指導に参加・協力する。2003年にNPO法人の認証を受ける。

ホームページ:<http://www.c-c-cnet.org/>



「C-C-Cらんど」を製作中のキッズたち。紙粘土で作った量二枚分の大きさの鳥にはキッズの夢や思いが詰まっている。ホームページでも見れます。